

はやはや

Fukui Red Cross Hospital

福井赤十字病院広報誌

vol.028



左手のピアニストのコンサート 病気を乗りこえて!

9月11日(金)、本館1階エントランスホールにて、左手のピアニストとして活躍されておられる、さいたま市在住の新澤義志さんのピアノコンサートを開催しました。

新澤氏は2002年8月に脳出血で倒れ、右半身完全麻痺、言語麻痺の後遺症が残りました。しかし世界的に有名なピアニストの館野東さんが同じように右片麻痺になってから左手のピアニストとして再起していることを知り、新澤氏もやってみようとしたそうです。現在、全国各地の病院を訪問しながらパラティアで演奏活動を続けています。

コンサートでは、すばらしい演奏の合間に失語症ながらも、一言ずつ言葉を繋げて曲目の解説をされる姿は、多くの聴衆の心を打ちました。患者さんからは「とても感動になった。感動しました」との感想が聞かれ、非常に有意義なコンサートとなりました。

福井赤十字病院

理 想

人道・博愛の精神のもとに、県民の求める優れた医療を提供します。

基本方針

- 患者様の権利と尊厳を尊重し、相互理解に基づく医療を行います。
- 患者様に優しい医療を提供します。
- 医療の安全と質の向上に努めます。
- 地域の保健・福祉・医療機関と連携を進めます。
- 救急医療を充実させ、地域の急性期医療を担います。
- 災害時に積極的な医療救援や救援活動を行います。





今できる最高の対策を!

新型インフルエンザ から守るために

全国各地で猛威を振るう新型インフルエンザ
当院でも徹底した感染予防体制で、診察診療を継続中です
福井県の現状と当院での対策をご報告します

手洗い、うがい、マスク装着の励行、徹底を

新型インフルエンザの感染が拡大してきています。福井県は全国と比べ発生状況はまだ少ないですが、10月に入つてきてから急激に増加してきています。この増加の傾向は全国と比べて、大体約2週間の遅れで推移しているようです。福井県が毎週発表している週別発生状況報告になると、例年この時期の感染者数は0～1で推移していますが、10月19日から25日にかけての感染者数が10を超えるインフルエンザ注意報が出されました。感染者の内訳では、幼児と14歳以下の児童が80%を占め、20歳以下の未成年が90%と、ほとんど若年者に偏った状態です。県内の入院患者はこれまでに10人いましたが、ほとんどが10歳以下でした。ただ1人の50代の患者さんが不幸にもなくなりました。全国的にみましても死亡者・重症者は、基礎疾患をもつ、高齢者に多いようです。

当院でも当初は國の方針、県の指示に従つて、発熱外来を設置し、専門の診療チームを編成しました。感染の疑われる患者さんは来院されることに、診療にあたる医師を呼び出しする体制で、感染防護服を装着し完全装備のもと診療に当たりました。おかげで当院では、院内感染は発生しませんでしたが、かなりのストレスが診療チームにたまつたようです。現在は通常の外来業務の中で診療に当たっています。

今後もこれまで以上に日常の手洗い、うがい、マスク装着、せきエチケットなどを励行し、患者さまを院内感染から守り、インフルエンザに対抗していくたいと考えています。

す。

福井赤十字病院では、新型インフルエンザ対策に早くから取り組んできました。昨年の5月からは、強毒性の鳥型インフルエンザに対する、感染マニュアルを作成しておりました。ところが、本年4月にやや弱毒のブタ型の新型インフルエンザが発生しました。

10月から医療従事者にワクチンが配付され、11月からは基礎疾患のある患者さんにもワクチン接種が始まります。今後も感染の推移は、まだまだ予断を許しませんが、少し明るさが見えてきたと考えています。



副院長
谷 光雄

いざという時のために！

地震火災発生時の対応・連携を確認

救急の日にあたる9月9日(火)、福井赤十字病院、日本赤十字社福井県支部、福井市消防局の職員ら約120名による防災訓練が実施されました。

今回の訓練では、嶺北地方に起つた「震度6」の地震によつて病院の建物が被災し火災が発生したとの想定でわれ、地震発生直後に職員による消火活動、患者の避難誘導などをを行い、被災時の対応を再確認しました。

その後、病院からの通報を受けて福井市消防局の救助隊が到着し、火災の消火活動、はしご車による被災者の救助にあたり、当院の医師、看護師などから編成される医療救護班が被災者の治療・救護に当たりました。

また、福井市消防局の起震車による「震度7」の地震の体験、煙中体験テントでは火災時の体験ができ、見学者の興味を引いていました。



がん診療センター専門員が、がんについて分かりやすく解説

9月26日(土)、「がんとのかかわり

方」「各専門員からお伝えしたいこと

」と題して、福井赤十字病院市民公開講座が開催されました。本講座では、

がん診療センター専門員の医師、看護師、臨床心理士および社会福祉士から

名が、手術・化学療法などがんの治療法、緩和ケア、こころのケア、相談支援センターの役割について講演を行いました。講演後の座談会では参加者からがんについて様々な質問があり、参加

者は熱心に聞きいつていました。

また、患者さんの家族会(スマイル会)が設立されました。病気による悩み」とや治療などの情報交換を目的としております。

詳細については、がん診療センター

相談支援窓口(☎ 0776-36-3673)までお

問い合わせ下さい。



「エコノミー症候群 (肺血栓塞栓症) 予防の取り組み」

エコノミークラス症候群という言葉を耳にしたことがあるのではないでしょうか。飛行機などの乗り物で長時間同じ姿勢を続けた場合に、起こりやすくなる病気で肺血栓塞栓症が原因と言われております。

同じように、入院中の患者さんで、長い間ベッドで安静を必要とする場合や、手術や出産の後もこの病気が発生しやすい状態となります。これ

を予防するため、下肢の運動や下肢を圧迫して血流を促進するストッキング(弾性ストッキング)の着用をお願いしております。

また9月9日(救急の日)には肺血栓塞栓症予防についての研修会を開催。その中で、参加者全員が実際に弾性ストッキングを着用し、着用法の実習を行いました。

今後とも患者さんと協力しながら、予防に努めてまいります。



Topics



地域のかかりつけ医を紹介するパンフレットを設置いたしました

当院では、症状が安定・軽快している患者さんには地域のかかりつけ医に紹介させていただくことを推進しており、このたび、病院の正面玄関脇に地域連携医療機関のパンフレットを設置いたしました。自由にお持ち帰りいただくことが可能です。



当院では、患者さんがご希望する診療所・病院に紹介させていただきますので、ぜひ「かかりつけ医」をお持ちください。

かかりつけ医からの紹介状をご持参いただいた場合のメリット

- ◆これまでの治療経過を今後の診療に活かせます。
- ◆前回の検査結果との比較が容易にできます。
- ◆既に実施した検査や結果がわかれれば重複して検査を実施することはありません。
- ◆お薬の内容や経過がわかれれば、副作用のチェックにもつながります。

栄養課
おすすめ!

秋のレシピ (栗ごはん)

①米はよく研いでザルに上げておく。②まいたけは石突きを取りはぐしておく。③油揚げは小さめの短冊切りにする。④炊飯器に米(①)、調味料Aを入れ、だし汁を3合の水量より気持ち少なめに入れる。(調理から水分が出るので気持ち少なめがいい)⑤にむき栗、まいたけ、油揚げを入れ軽く混ぜ炊飯スタート。⑥炊き上がったら軽く混ぜて茶碗に盛る。

秋の味覚といえば栗。栗は種実類に分類されますが、糖質やたんぱく質、カロリーは低めで、糖質(=炭水化物)が多く含まれています。また、糖質をエネルギーに変える代謝に必要なビタミンB1を多く含んでいます。更にも抵抗力を高めるビタミンCも多く含まれています。またアミノ酸、特に疲労回復を促すアスパラギン酸が多く含まれています。秋の疲れを癒し、活力アップに一度作ってみてはいかがですか?



材料(3合分) /
米 3合、むき栗 250g程度、
まいたけ 1/4枚、
油揚げ 1枚、だし汁 3合
炊く量より少なめ、
A(酒 大さじ2、醤油 大さじ1、塩 小さじ)、黒胡麻 適量

●1人分
エネルギー 453kcal
食物繊維 4.2g
脂質 4.6g
VE 0.20mg
炭水化物 88.9g
VC 13mg
たんぱく質 10.8g
糖分 1.4g

より患者さんに満足していただくために

9月25日(金)に、講師として伊予嘉久子 氏をお招きし、医師を対象に接遇向上研修を開催いたしました。研修では医師が患者役、講師が医師役を務めていただき、診察場面でどこに問題点が有るのかを解説していただきました。

今後とも患者の視点で、患者さんに対する思いやりの心をもつて患者さんにより満足していただけるように努めてまいります。



福井赤十字病院

〒918-8501
福井県福井市月見2丁目4番1号
TEL.0776-36-3630(代)
FAX.0776-36-4133
E-mail
webmaster@fukui-med.jrc.or.jp
<http://www.fukui-med.jrc.or.jp/>
広報に関するご意見、ご感想をお待ちしています。

ほやはほや

“ほやはほや”と納得できる情報、できたて“ほやはほや”的情報をみなさまに提供していく季刊発行の院内情報誌です。院内の広報委員のスタッフ皆で毎回その季節に合った特集を組み、お後に立てる情報を掲載すべく病院各部門のスタッフそれぞれから原稿を集め毎回制作しています。